



国指定重要無形民俗文化財

放生津八幡宮祭の

曳山・築山行事



富山県 射水市



きららか射水 観光NAVI



ふるしんまち
古新町

ダシ：鉦鈴
王様：諸葛孔明
前人形：唐子の太鼓叩き

放生津で最も創建年が古く、常に一番山です。一重山で、放生津曳山の古い形を示すとされています。



ちょうとくじ
長徳寺

ダシ：揚羽蝶
王様：神武天皇
前人形：唐子遊び

新町曳山の図面をもとに再建されました。板車と差車を組み合わせたような車輪のデザインが特徴的です。



なごまち
奈呉町

ダシ：錫杖
王様：恵比須
前人形：唐子遊び

放生津で数少ない板車の曳山です。舟形山と呼ばれ、外に屈曲して広がる中山高欄が特徴的です。



なかまち
中町

ダシ：一
王様：寿老人
人形：唐子（4体）

ダシと花傘を持たず、上山が回転する特殊な構造の曳山です。上山は須弥山や築山を模したとも伝えられます。



あいのちよう
四十物町

ダシ：打出の小槌
王様：菊慈童
前人形：三番叟

明治時代まで、ダシは「水甕」でした。鋳金具を多用した中山高欄の各所に、愛らしい雀が遊んでいます。



ひがしまち
東町

ダシ：諫鼓の鶏
王様：尉と姥
前人形：三番叟

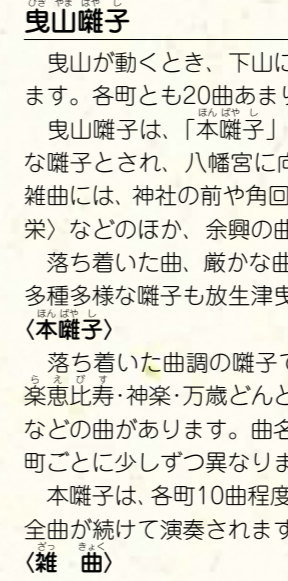
放生津最大の三重山で、上山には鳥居があります。曳山の重さで橋を破って内川に落ちたという逸話があります。



あrawamachi
荒屋町

ダシ：千枚分銅
王様：大黒
前人形：唐子懸垂回転

放生津で唯一の白木の曳山です。海老江と氷見には、荒屋町をモデルとして造られた曳山があります。



うすのやま
曳山囃子

お神楽
チンチコ
弥栄

曳山が動くとき、下山に乗った笛・太鼓・鉦・三味線の囃子方が曳山囃子を演奏します。各町とも20曲あまりの囃子が継承されています。本囃子は正式な囃子とされ、八幡宮に向かうときや他の曳山町内へ入るときなどに演奏されます。雑曲には、神社の前や角回しなど、巡行中の場面に合わせて演奏される（お神楽）・（弥栄）などのほか、余興の曲として民謡・童謡や明治時代以降の流行歌などもあります。落ち着いた曲、厳かな曲、賑やかな曲など、多種多様な囃子も放生津曳山の魅力です。



曳山の中で演奏する囃子方

（本囃子）

（雑曲）

お神楽

チンチコ

弥栄

戻り囃子

神社や祠などの前で演奏される厳かな囃子です。

お神楽の後や、祝儀が出された家の前で演奏される軽快な囃子です。囃子に合わせて前人形が、太鼓叩きや Denguri 返しなどの所作をします。

角回しで演奏されます。曲がり角に近づくにつれ、徐々にテンポが速くなり、曲がり終るとまたゆっくりしたテンポに戻ります。

曳山が後退するときや、帰路の途上（戻り山）などで演奏されます。

勇壮な角回し

曳山は、前後の長手に連なった曳き子、曳山の前で指示を出す誘導責任者、ハタキや拍子木で合図や音頭をとるナカヤマ、下山に乗った囃子方など、多くの人の力で動いています。曳山の巡行中は、威勢の良い「イヤサー（弥栄）」の掛け声が響き渡ります。

狭い街路の角を勢いよく曲がる「角回し」は、放生津曳山の最大の見せ場です。囃子方が演奏する「弥栄」のテンポと勢いが最高潮に達し、誘導責任者の合図で、全員が息を合わせて一気に角を曲がっていきます。



放生津曳山の見せ場「角回し」

ひきやまぎょうじ
曳山行事（10月1日）

13基の曳山が、昼は「花山」、夜は「提灯山」となって、旧新湊市街地を巡行します。

放生津の曳山は、慶安3年（1650）に、古新町の富裕町人が出した法泉山が創始と伝えられます。延宝4年（1676）には、曼陀羅寺からも複数の「引山」が出され、元禄5年（1692）には、奈呉町・中町曳山が創建されました。

その後も町の規模や経済的成長を背景に、各町で相次いで曳山が建造され、明治時代のはじめに現在の13町曳山が出揃いました。

13町が揃った曳山の巡行は「本曳き」と呼ばれ、「新湊曳山祭り」として知られています。

放生津曳山の姿

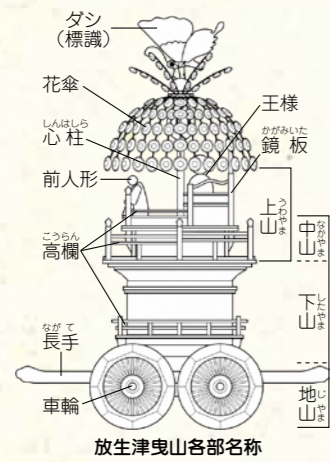
放生津の曳山は、中央に立てた一本の心柱を、ダシ（標識）と花傘で飾った「花傘山」という曳山です。

下から順に、車輪・長手などの「地山」、囃子方が乗る「下山」、高欄を廻らせた「中山」、さらに高欄を廻らせて王様・前人形を乗せた「上山」からなります。地上からダシまでの高さは約8mあります。

曳山は、全体的に縦長の形状です。下山・中山・上山それぞれに高欄を廻らせた重層構造とすることが特徴で、中山・上山に廻らせた高欄の数から、一重山・二重山・三重山と呼ばれます。

中町曳山は、上山が回転する全国的にも珍しい構造です。

重層構造の曳山や提灯山の姿、勇壮で賑やかな曳き方など、放生津曳山の特色は、江戸時代後期以降、富山湾沿岸の港町に広がっていきました。



ひなやま
昼の花山・夜の提灯山

花山は、赤・白・黄色の造花を付けた30本あまりの花枝を傘状に整えた「花傘」で飾られています。

夕方になると、曳山は花傘を外し、中山から上部を250個あまりの提灯で覆った提灯山に装いを改めます。

提灯山は、全体が巨大な行燈のように見えます。



提灯山

おうさま
王様と前人形

王様は、各町の守護神として曳山に載せる等身大の飾人形です。日本や中国の神・武将などを象っています。

前人形は、王様と対になるカラクリ人形です。祝儀をいただいた際などに、軽快な囃子に合わせて愛らしい所作を演じます。



王様 前人形



みつかせき
三日曾根

ダシ：同開珎
王様：布袋
前人形：唐子懸垂回転

王様と6本の柱彫刻で一組となった七福神や、港町らしい魚介類を象った金具など、遊び心のあふれた曳山です。



しんまち
新町

ダシ：法螺貝
王様：神功皇后
武内宿禰

彫刻・金工・漆工の豪華さから「千両山」と呼ばれる放生津随一の豪華な曳山です。2体の王様が乗っています。



ごんやまち
紺屋町

ダシ：振鼓
王様：日本武尊
前人形：巫子

放生津で数少ない板車の曳山です。続き絵となった鏡板や三十六歌仙の鋳金具などが目を惹きます。



たてまち
立町

ダシ：「壽」
王様：孔子
前人形：猿公の太鼓叩き

一重山で、放生津曳山の古い形を残す曳山とされています。上山高欄や欄間彫刻の出來栄えは必見です。



ほうどじまち
法土寺町

ダシ：軍配
王様：関羽・張飛
前人形：猿公

鋳金具や彫刻を多用し「仏形を残す曳山」とされています。かつては劉備の人形も乗っていたと伝えられます。



みなみたてまち
南立町

ダシ：五三の桐
王様：住吉大明神
前人形：唐子遊び

幕末に建造された放生津最後発の曳山です。下山欄間の幅が広く、他の曳山より背の高い形状となっています。

くいらし
鬮取式（8月初旬の大安の日）

江戸時代から続く、巡行順番を決める神事です。

放生津曳山の創始とされる古新町は、「鬮除け一番山」として常に1番に固定されており、その他の12町は、2番山から7番山までの「前山」と、8番山から13番山までの「後山」に分かれて鬮を引きます。

前山と後山は毎年入れ替えられ、当年前山だった6町は、翌年は後山となります。



鬮取式

いろうし
入魂式（9月30日）

各曳山町の王様と前人形にカミ（魂）を入れる神事です。王様と前人形を安置する山宿や曳山格納庫などに、放生津八幡宮から神職を迎えて行われます。

9月30日に放生津の町を歩くと、祭りを迎えるために飾られた王様と前人形の姿を見ることが出来ます。



入魂式

9月30日

宵祭

17:00~ 魂迎式・築山祭(大祭)
17:30~ 前夜祭

入魂式 ※長徳寺は9月下旬の町内曳きに合わせて実施

17:00~18:00 三日曾根
18:00~19:00 東町 荒屋町 新町 法土寺町 南立町
19:00~20:00 古新町 中町 四十物町 紺屋町 立町
20:00~ 奈呉町

10月1日 (内川南回り順路【 】は内川北回り順路)

花山

6:00~放生津八幡宮前(曳山お祓い)
9:00 東町(花山出発)
10:00 四十物町~立町~江柱通り【荒屋町~四十物町】
11:00 南立町~かぐら通り【山王町~中町】
12:00 南立町~法土寺町~紺屋町【奈呉町】
13:00 紺屋町~新町【湊橋~古新町】
14:00 新町~三日曾根【長徳寺~古新町】
15:00 三日曾根~古新町【古新町~三日曾根】
16:00 長徳寺【クロスベイ新湊】(提灯山へ換装)

提灯山

18:30 長徳寺【クロスベイ新湊】(提灯山出発)
19:00 長徳寺~古新町【新町~紺屋町】
19:30 湊橋【法土寺町~南立町】
20:00 奈呉町~中町【南立町~江柱通り】
20:30 山王町~四十物町【江柱通り】
21:00 東町【江柱通り~南立町~かぐら通り】
21:30 荒屋町【かぐら通り~立町】
22:00 東町【立町~四十物町~東町】
22:30 放生津八幡宮前(曳き別れ)

10月2日

築山行事・例大祭

5:00~ 築山飾り付け
7:00 築山祭(大祭)・築山飾公開
10:00~ 例大祭
11:00~ 放生会式
12:00 魚の放流
16:00~ 築山飾片付け

- 曳山巡行路
曳山格納庫
曳山・築山行事の見どころ
神社・寺院
公衆トイレ
駐車場

行事の流れは、おおよその実施(通過)時間帯を記したものです。
曳山の巡行路は、内川を挟んで南北に分かれています。曳山は、当年の「前山」6町が位置する側から順に進みます。
内川の南回りと北回りの巡行路は毎年入れ替えとなり、当年の花山の巡行路は、翌年は提灯山の巡行路となります。



法土寺町・南立町境は傾斜と急カーブの難所です。法土寺町は、内川沿いを進む曳山を眺められる見どころです。
広い通りに行き交う曳山の姿を見ることができます。立町交差点付近は角回しの見どころの一つです。
緩いカーブの広い通り。一列に並ぶ曳山がよく見えます。
道幅が狭く曲がり角が多い場所。角回しが連続します。
内川と二上山を背景に曳山が橋を渡ります。
曳山と神輿が立ち寄ります。内川北回りの年には、ここで提灯山への換装作業が行われます。
放生会式の後、魚を内川に放します(10月2日)。



内川は、鎌倉時代以来、放生津の交通・物資運搬に重要な役割を果たしてきました。漁船が係留された独特の風景と、個性的なデザインの橋巡りが楽しめます。



放生津八幡宮門前の道は、浜往来と呼ばれた街道で、東町神明宮・旧山王町山王社・奈呉町気比社など、中世以来の神社や町の主要施設が並びます。松尾芭蕉や伊能忠敬もこの道を通りました。



Table with walking distances from various stations to festival sites. Includes stations like 中新湊, 放生津八幡宮, 新町, 川, 西新湊, 放生津八幡宮, 川, クロスベイ新湊.

Information for クロスベイ新湊, including a photo and text describing it as a complex facility for sightseeing, rest, and dining.

Five numbered photographs (1-5) with captions: 1. Soul-welcoming ceremony and festival start. 2. Blessing at Otori. 3. Blessing of the floats. 4. Departure from Otori. 5. Blessing of the floats.

Five numbered photographs (6-10) with captions: 6. Shrine in Yamakura. 7. Shrine in Utsukawa. 8. Shrine in Nakamachi. 9. Shrine in Hamakura. 10. Shrine in Nishinaga.

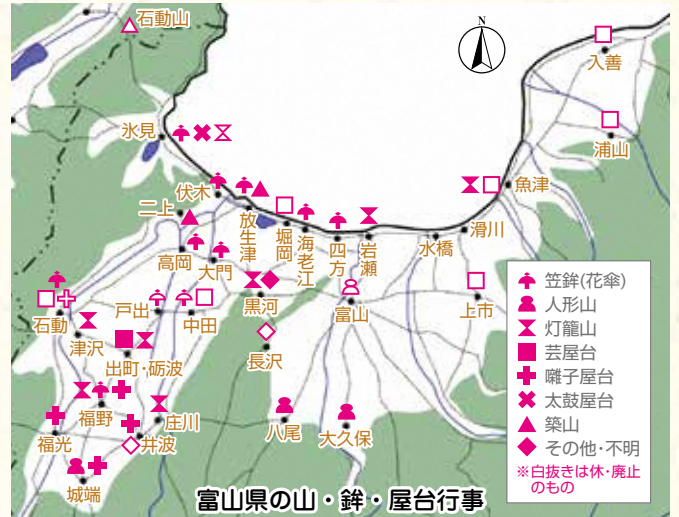
Five numbered photographs (5-9) with captions: 5. Continuous turns on the river. 6. Crossing the bridge. 7. Floats on the river. 8. Departure from Otori. 9. Festival float on the river.

富山県の山・鉾・屋台行事

趣向を凝らした造形物や人形、豪華な彫刻・金具などで飾られた曳山や屋台が主役の祭礼行事は「山・鉾・屋台行事」と呼ばれ、全国に約1,500の行事が伝わっていると推定されています。

富山県の山・鉾・屋台行事は、慶長14年（1609）の創始と伝わる高岡御車山祭に始まり、江戸時代中期に放生津・城端・魚津・八尾・石動・出町（砺波市）・岩瀬・氷見など地域の中核的な港町や商業町に、江戸時代後期から明治時代には、伏木・海老江・福野・大門・大久保などに広まってきました。

山・鉾・屋台には、「笠鉾」、「人形山」、「灯籠山」、「芸屋台」、「囃子屋台」、「太鼓屋台」など、様々な種類があります。富山県では、笠鉾・人形山・芸屋台は「曳山」、灯籠山は「タテモン」・「夜高」・「曳山(岩瀬)」と呼ばれています。



富山県内には、多種多様な姿の山・鉾・屋台行事が継承されています。

笠鉾は、曳山の中心に一本の柱を立てるもので、高岡・放生津・氷見・石動・伏木・福野・海老江・大門など県西部に多く見られます。いずれも柱の天辺をタンや花傘で飾って人形を備えた「花傘山」と呼ばれるもので、笠鉾と人形山の両方の要素を持つことが特徴です。

人形山は、屋根を備えた曳山に大きな人形を載せ、数多くの彫刻や鍔金具で飾った城端・八尾・大久保の曳山が知られています。

灯籠山には、高い柱に横木を渡して多数の提灯を吊った魚津タテモンや、台車に大行燈を載せた岩瀬曳山、竹ひごと和紙で作った立体的な造形の行燈を載せた福野・砺波・庄川・津沢の夜高があります。

芸屋台は、舞台を備えた曳山で歌舞伎などを演じます。現在は、出町子供歌舞伎曳山のみ行われています。

囃子屋台・太鼓屋台は、城端・福野・氷見では曳山と一緒に、福光・井波では単独で出されています。

これらのほか、臨時の祭壇に人形などを飾る**築山**が、放生津八幡宮と二上射水神社で行われています。



安永の曳山騒動

江戸時代中期の安永4年（1775）から同5年（1776）にかけて、高岡と城端・放生津・石動の間で起こった曳山をめぐる争いです。高岡御車山と似た「車」の使用や祭礼の中止命令が出され、以後の曳山祭礼に大きな影響を与えました。町の象徴として、曳山がいかにか重要視されていたかを示す事件といえます。

射水の山・鉾・屋台行事

海老江加茂神社秋季祭礼の曳山

9月の秋分の日、海老江加茂神社の秋季祭礼として西町・中町・東町の3基の曳山が巡行します。

曳山の創始時期は不明ですが、天保15年（1844）には、現在の曳山が建造されていたと考えられます。

曳山の形状や賑やかな巡行の様子、曳山囃子などに放生津曳山の影響が見られます。若衆の音頭で曳き子が唄う木遣唄は、明治・大正時代に北海道に出漁した漁師によって伝えられたといわれます。



大門神社・枇杷首神社秋季祭礼の曳山

10月上旬の日曜日に、大門神社と枇杷首神社の秋季祭礼として西町・中町・田町・枇杷首の4基の曳山が巡行します。

曳山は、明治10年（1877）頃に始まったと伝えられます。

一重高欄の上山や二輪の曳山(枇杷首)が存在する点、ゆっくりと曲がる運行方法などに高岡御車山からの影響が見られます。夜間は、花傘の内側と下山に提灯を吊り下げ、花傘山の姿で巡行します。



黒河夜高祭

江戸時代後期に加茂社春季祭礼として始まったと伝えられます。

現在では8月の第4土曜日に行われており、地元に残る若見重太郎のヒヒ退治伝説などを描いた行灯を手にした子供たちが、囃子唄とともに通りを練り歩きます。



お問い合わせ先

射水市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 TEL: 0766-51-6637 FAX: 0766-51-6663
〒939-0294 富山県射水市新開発410番地1 E-mail: bunkazai@city.imizu.lg.jp